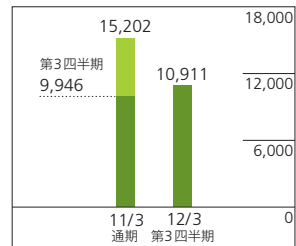


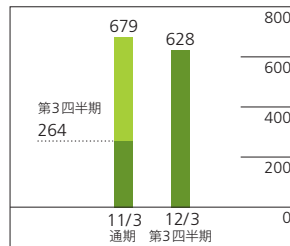
業績ハイライト

トピックス

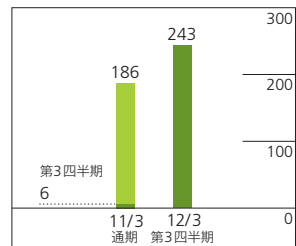
売上高
(単位:百万円)



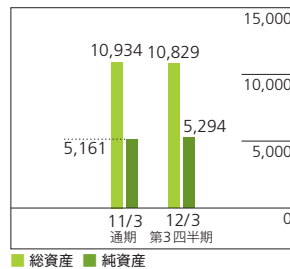
経常利益
(単位:百万円)



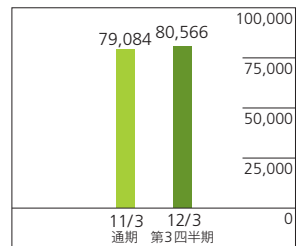
四半期(当期)純利益
(単位:百万円)



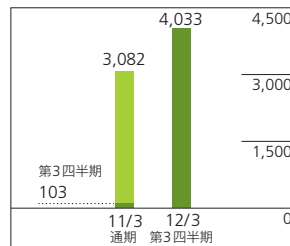
総資産/純資産
(単位:百万円)



1株当たり純資産
(単位:円)



1株当たり四半期(当期)純利益
(単位:円)



当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同四半期比9.7%増の109億11百万円、営業利益は122.5%増の5億63百万円、経常利益は137.8%増の6億28百万円となりました。四半期純利益は3,781.2%増の2億43百万円です。

総資産は前年度末から1.0%減の108億29百万円、純資産は前年度末から2.6%増の52億94百万円となりました。自己資本比率は前年度末の43.7%から44.9%となりました。

個人投資家説明会を開催しました

2011年11月25日、東京駅近くのグラントウキョウノースタワー17Fにおいて、個人投資家説明会を開催しました。当日は、300名を超える個人投資家の皆様に参加され、当社の説明に熱心に耳を傾けてくださいました。ご参加くださった投資家の皆様、ありがとうございました。



テクマトリックスでは、今後も様々な形で株主・投資家の皆様にわかりやすく事業の説明を行い、企業理解の向上に努めてまいります。

個人投資家向けのホームページを開設します

テクマトリックスでは、個人投資家説明会をはじめとして、できるだけわかりやすく事業の内容をお伝えさせていただくよう努めてまいりました。その取り組みの一つとして、このたび、個人投資家の皆様に向けたホームページ「おしえて、由利くん!」を開設することになりました。



この特設ページは、可能な限り専門用語を使わず、日常生活でイメージできるようなテクマトリックスのサービス紹介を行うページです。さらに、イラストやマンガも活用して視覚的に当社を理解していただけるような構成となっています。ぜひ一度ご覧ください。

会社概要 (2011年12月31日現在)

商号	テクマトリックス株式会社
設立	1984年8月30日
上場	2005年2月18日
資本金	12億9,812万円
従業員数	868名(連結)
所在地	〒108-8588 東京都港区高輪4丁目10番8号 京急第7ビル
	TEL:03(5792)8600(代表)
	FAX:03(5792)8700
ホームページ	http://www.techmatrix.co.jp/

Insight into the future

平成24年3月期 第3四半期報告書

2011.4.1 > 2011.12.31

テクマトリックス株式会社

証券コード:3762

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日々益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、第28期(2011年4月1日~2012年3月31日まで)の第3四半期が終了致しましたので、ここに四半期報告書をお届けし、営業の概況と決算につきましてご報告申し上げます。

東日本大震災やサーバー攻撃の発生を契機とした情報基盤増強の特需的ニーズは、第2四半期連結累計期間中に落ち着いてきており、当第3四半期連結累計期間においては、長引く円高や株安の影響、欧州の国家債務危機、あるいは欧米・新興国市場の減速懸念など外部環境の不透明さが増しており、企業の購買意欲は、減速気味となっております。このような環境下、当社グループでは:

- ①引き続きクラウド・サービスに対する需要が高く、クラウド事業者の設備増強の動きは活発です。政府機関や大手企業に対するサイバー攻撃の影響で、セキュリティ対策の見直しも継続しております。これらのニーズに対応する情報基盤ソリューションの提案を積極的に行っています。また、次世代ファイアウォールの拡販など、クラウド時代に適合した新しい付加価値の提案にも力を入れました。
- ②CRM分野、医療分野、インターネットサービス分野においてSaaSサービスを拡販するなど、当社自らが提供しているアプリケーション・サービスの「クラウド化」にも積極的に取り組みました。
- ③スマートフォンなど新しいタイプの情報端末を活用したアプリケーションの受託開発、教育事業などに取り組みました。また、車載分野、医療機器分野、ファクトリーオートメーション分野などを中心に、組み込みソフトウェア分野における機能安全規格への対応ニーズに積極的に取り組みました。

第4四半期連結累計期間においても外部環境の大幅な改善は期待できませんが、業績目標の達成に向けて全社一丸となって企業価値の更なる向上を実現することにより、株主の皆様への貢献を目指します。今後とも株主の皆様にはより一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2012年3月



代表取締役社長 由利 孝

各事業セグメントのご紹介

情報基盤事業

独自の目利き力を活かし、北米を中心にニッチながらも、高い技術力、競争力、成長力をもつ製品やサービスを見極め、単なる製品販売にとどまらない高付加価値なフルラインのサービスをお届けしています。個別企業(エンタープライズ)向けに加え、PaaS、HaaS/IaaSなどのクラウドサービスを提供する事業者の情報基盤を提供しています。

グリーンIT、仮想化ソリューション、次世代ネットワーク、セキュリティ、ストレージなど、コスト競争力のある堅牢で可用性の高い要素技術の提供だけでなく、最適な要素技術を組み合わせるインテグレーション、そしてインフラの設計・構築・導入後の安定稼働を実現する保守・運用など、システムのライフサイクル全てをカバーするITサービスを提供します。

アプリケーション・サービス事業

特定のアプリケーション領域における豊富な業務ノウハウの蓄積を活かし、システム開発、アプリケーション・パッケージ、クラウドサービス、テスト・ソリューションなど様々なアプリケーション・サービスを提供します。

医療、コンタクトセンターCRM、インターネットサービス、金融、ソフトウェア品質保証の5つのソリューションを核とし、エンドユーザとの直接的なコミュニケーションを通じて、業務分析、設計、ソフトウェア開発・構築、テスト、運用・保守のトータル・サービスでITを活用した業務改善・コスト削減提案を積極的に行い、人と社会に優しい情報化社会の実現に貢献します。

	当第3四半期の業績 (連結累計) (百万円)	通期業績予想 (連結) (百万円)
売上高	10,911	14,700
経常利益	628	880
四半期(当期)純利益	243	400

なお、現時点において、2011年5月12日発表の業績予想から変更はありません。

セグメント別営業概況

情報基盤事業

主力の負荷分散装置の販売は堅調でした。大手企業や政府機関へのサイバー攻撃により喚起された

売上高	7,134百万円
営業利益	670百万円

情報セキュリティ製品に対する需要が追い風になり、次世代ファイアウォール製品、アンチウィルスライセンス、Webサイト脆弱性監査ツール、不正侵入防御アプライアンス、リモート・アクセスアプライアンスは販売が増加しました。クロス・ヘッド株式会社ならびに沖繩クロス・ヘッド株式会社では、ネットワークインフラの保守/運用/監視、クラウドサービス(HaaS、SaaS事業)などで順調な販売が継続しました。エヌ・シー・エル・コミュニケーション株式会社では、ストレージ、CRM製品の販売は苦戦しましたが、セキュリティ製品販売は堅調でした。引き続き、新規事業・製品の立ち上げに継続して取り組んでいます。

アプリケーション・サービス事業

インターネットサービス分野では、スマートフォン関連の開発案件など、既存顧客を中心に受託開

売上高	3,777百万円
営業利益	△107百万円

発案件は復調傾向にあります。また、新規案件獲得の競争は依然熾烈な状況が続いていますが、新規顧客の開拓が進みました。株式会社カサレアルでは、当第3四半期連結会計期間が不採算案件から新規案件への切り替え時期にあたり、採算面では苦戦しましたが、次四半期よりの採算改善の目処をつけました。

金融分野では、受注までの営業活動が長期化する傾向にあり、売上・採算面で苦戦しました。

ソフトウェア品質保証分野では、製造業向けを中心に組み込みソフトウェアに関する品質向上、機能安全の必要性の浸透による需要の高まりはあるものの、長期化する円高及び震災の影響は否めず、大型の案件が減少し、やや苦戦しました。

医療分野では、案件規模が縮小傾向にあるものの、堅調な更新案件需要により売上・採算面ともに復調傾向にあります。合同会社医知悟は、クラウド化に弾みがついたこともあり、契約施設数、読影依頼件数、従量課金金額を順調に増やしました。

CRM分野では、大手システム・インテグレータとの業務提携や、クラウド需要の増加により、順調に売上を伸ばしました。